

平成 20 年 12 月 25 日

日本ヒトプロテオーム機構(JHUPO)理事会 議事録

日 時 平成 20 年 12 月 9 日(火) 15 時～17 時

場 所 クオリティホテル神戸 6F「ポートアイランド」

《出席者》10 名（敬称略順不同）

中村和行、荒木令江、小林章一、平野久、高尾敏文、戸田年総、根本直、大石正道（前田忠計先生の名代）、山本格、吉里勝利

《委任状》9 名（敬称略順不同）

磯辺俊明、曾根純一、高山光男、中西洋志、中村範夫、西村俊秀、前田忠計、真鍋敬、森川實

総理事 21 名中、参加 10 名、議長委任 9 名により理事会は成立した。
次のとおり議事進行が行われた。

議事内容

1. 報告事項

1-1. JHUPO 第 6 回大会報告

- ・ 中村会長の挨拶の後、高尾理事より、収支決算報告書に従って JHUPO 第 6 回大会の内訳が説明された。監査は戸田理事によりなされ、内容が正確であると報告された。
- ・ 中村会長より、繰越金については、JHUPO 国際会議準備金、および若手研究者 HUPO 参加支援金として運営するとの説明がなされ、承認が得られた。

1-2. JHUPO 第 7 回大会について

- ・ 大石正道先生より、資料（別添 1～2、附設展示会ご案内書、パンフレット）に従い、関連概要、開催準備の進捗について報告がなされた。以下は補足事項である。
- ・ 会場の北里大学薬学部 白金キャンパスへは、JR 恵比寿駅、田町駅からバスが出ており、交通の便がよい。

- ・ 主催に薬学部が入ることにより、会場の使用料が無料となる。
- ・ 各シンポジウムは2時間半が基本で、演題は6名程度を想定している（「添付1」の「プログラム委員（兼 座長）」の内容を修正）。
- ・ シンポジウム2のプログラム委員（兼 座長）が1名未定のため、すでに決定している小田吉哉先生と相談して決めていく。
- ・ 非会員のシンポジストに、旅費や謝礼として最大5万円まで補助できないかと考えている。

1-3. その他

1-3-1. 2008年HUPO（於：アムステルダム）について

平野副会長から2008年にアムステルダムで開催されたHUPOについて、以下の参加報告がなされた。

- ・ 参加者は2000名ほどで、日本人よりも中国、韓国からの参加者が多かった印象。
- ・ 理事の選挙があったが日本からの候補者はいなかった。
- ・ 各国のHUPO会長の会議では、会費のありかたが話題となった。また同じ席で、2013年のHUPO世界大会を日本で開催するためにサポートいただきたいと話をし、支持を得た。

山本理事から以下の参加報告がなされた。

- ・ 参加者は多かったが選挙で投票する人が少なく、投票に来やすい主催した国の人がCouncilを決めてしまうのではないか。
- ・ Council Meetingでも選挙のありかたが話題になり、エリア別で半分、選挙で半分選出するあり方がよいのではないかという議論があった。

中村会長から以下の発言がなされた。

- ・ ソウルでも選挙について同様の議論があり、Councilは各国一人といった形で均等にした方がよいのではないかという話をした。
- ・ fairなCouncilにするため継続して提言をするつもりだが、そのために、会員を増やし、またCouncil MeetingでのInitiative Chairの強化をしていきたい。

1-3-2. 後援について

中村会長より、2008年JAIMA Conference『メタボリック・プロファイリング：食品と健康を測る』、質量分析学会の討論会等を後援したとの報告がされた。

1-3-3. AOHUPOの役員会で決定したこと

- ・ 2009年6月中旬(6月11日～13日)に、台湾で AOHUPO Membrane Proteomics Initiative のワークショップ開催がほぼ決定した。
- ・ 2010年2月頃、AOHUPO Conference がインドで開催予定 (ハイデラバードが候補)。日程調整をしており、2009年12月になるかも知れない。
- ・ HUPO の開催について、2009年9月下旬トロント、2010年シドニー、2011年スイスのジュネーブ、2012年は未定、2013年は日本で予定。

2. 協議事項

2-1. HUPO2013 の招致について

2-1-1. HUPO2013 の招致について

- ・ 中村会長より、2008年6月の AOHUPO での理事会で、満場一致で承認された旨報告があった。開催地候補として①横浜、②京都が提案された。
- ・ 高尾理事および平野副会長より、金銭面での不安が指摘された。すなわち、会員数が少なく当日参加者数が読めず予算が立てづらいこと、企業からの寄附でやりくりできるのかの話がされた。
- ・ 平野副会長から、アムステルダムと全く同じ規模にする必要はなく、寄附の様子等を見ながら規模を決めていけばよいと発言があった。
- ・ 中村会長からは、できることとできないことをはっきりさせ、クオリティの高さを維持できるかが重要であると発言があった。
- ・ 高尾理事より、会員数を増やす必要性が指摘され、それに対し平野副会長からは、現在の会費 5000 円に対するメリット (たとえば雑誌) がなく、たとえばこれを 1000 円にして人数を 5 倍にしたり、参加費を安くしたりするのはどうかという提案がされた。
- ・ 中村会長より、2009年7月の理事会で最終決定する方向でまとめられた。

2-1-2. JHUPO 名称変更について

- ・ 高尾理事より、名称を変えるなら、たとえば「プロテオーム機構第〇大会 日本ヒトプロテオーム学会主催」としてはどうかと提案がなされた。
- ・ 根本理事からは、連絡機構と学会組織に分けてはどうかと提案があった。吉里理事からは、学会と組織の二重構造にする意味があるのか、また、HUPO の名を冠するメリットはあるのかと発言があった。
- ・ 戸田理事からは、名称から「ヒト」を外して、「プロテオーム学会」とする方が間口が広がるのではないかと提案がなされた。
- ・ 中村会長から、名称変更については本日の様々な意見を参考にし、常務理事会で

吟味したいとまとめられた。

2-2. JHUPU 第8回大会について

- ・ 中村会長より、2010年7月末に、国立がんセンター研究所の山田哲司先生に開催いただくことが提案され、承認された。

2-3. JHUPU の新理事について

中村会長より、別添3「JHUPU 新役員候補者名簿（案）」に従い、新理事について説明がなされた。

- ・ 理事の任期は1月1日から3年後の12月31日でよいか提案され、承認された。
- ・ 新理事の中で互選で選挙を行い、会長、副会長を決定することが提案され、承認された。

2-4. その他

2-4-1. 大阪大学蛋白質研究所の要望書について

大阪大学蛋白質研究所が共同利用・共同拠点となるよう要望書を出していただきたいとの依頼があった。これについて中村会長より、JHUPU から要望書を提出してよいかの提案があり、文面を修正した上で提出することが承認された。

2-4-2. 新理事について

- ・ 中村会長より、磯辺理事のコメントが紹介され、30、40代の若い方を新理事に加えてはどうかと話がなされた。これについて平野副会長より、女性が少ないため、男女比率を考える必要があると進言があった。
- ・ 中村会長より、以上の意見を踏まえ、まずは新理事でスタートし、その中で検討していくことが発言された。

以上